

昭和四年一月七日招集
第一回市議會臨時會會議錄

館山市議会第一回臨時会会議録

昭和四十二年一月招集

一月十七日(火曜日)

一 現在議員三十四名でその氏名次りとおり

一番 吉田 勇治郎 二番 鈴木 正一郎

三番 小柴 孝 四番 館石 伝蔵

五番 田中 祥郎 六番 秋山 六三郎

七番 田村 源治郎 八番 望月 照正

九番 安西 益男 一〇番 辻田 実

一一番 石井 正 一二番 菊井 敏博

一四番 志村 信作 一五番 小沢 恵太郎

一六番 関 武夫 一七番 黒川 佐太郎

一八番 西村 真次 一九番 藤田 好治

二〇番 保科 忠夫 二一番 江田 徳太郎

二二番

君塚喜三

二三番

中村省吾

二四番

島野茂樹郎

二五番

荻生田七郎

二六番

嶋田 繁

二八番

山田教宇

二九番

鈴木市蔵

三〇番

安藤憲友

三一番

安沢徳順

三二番

三沢 節

三三番

高橋文治

三四番

山本 昇

三五番

松本藤太郎

三六番

山口 康

一 議事日程

第一 議案第一号

簡易水道事業の實施に關して

第二 議案第二号

昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

一 次第百三十一條による出席説明員

市 長

本間 謙

助 役

小出 武男

収入役

荒戸 貴

庶務課長

山口

実

財政課長

長谷川

広治

衛生施設課長

吉田

耕一

農林水産課長

伊藤

幸太郎

環境書記長

大嶋

重義

一本議会の事務局長・局長補佐・書記

事務局長

高梨

清一

事務局長補佐

太田

博雄

書記

矢藤

恭一

同

山田

俊康

同

高尾

豊

同

庄司

徹

一出席議員

三十二名

一欠席議員

二名

午前十時〇三分 開議

議長(田中操郎君)

本日の出席議員数 二十八名

これより昭和四十二年度第一回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案審査のため地方自治法第百二三条の規定による

出席要求に対し本間市長 小出助役 宅戸収入役 山口課長

長谷川課長 吉田課長 伊藤課長 大嶋書記長 以上の者が

出席する旨の報告がありました。

議案を配付いたしました。

議案の配付漏れはありませんか。—— 配付漏れなしと認めます。

監査委員より十二月実施の例月検査が報告されております。

それでお手元に配付の通りであります。

会議録署名議員の決定を行ないます。

本臨時会の会議録署名員に一三番議員 菊井敏博君

二十四番議員 島野茂樹郎君 以上両君を指名いたします。

これに御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よて決定いたしました。

会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見は本日一日ということでありまう。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことに御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よて会期は一日と決定いたしました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

これから市長の本臨時会招集の案件につき説明を求めます。

(市長登壇)

(拍手)

・市長(本間譲君)

開会に当りまして一言申し上げたいと存じます。

昭和四十二年の新春を迎え館山市民とともに慶賀に存ずる次第でございます。さて本日臨時市議会を招集いたしました上程いたします。付議事件は一般議案関係といたしまして簡易水道事業の実施についてであります。これはかねて懸案でありました富崎地区の一部及び豊房地区の一部を給水区域とする簡易水道事業を昭和四十二年度から実施しようとするものであります。

次に予算関係議案としまして一般会計の補正をお願いする次第でございます。補正いたします。おまなものといたしました。では衆議院の解散に伴い一月二十六日執行される衆議院議員選挙及び最高裁判所裁判官国民審査に要する

經費として百八十万二千円 一般議案に関連いたします簡
 易水道事業認可設計委託料として二百十万円、安房
 中央土地改良区が施行中の中央ダムに関する事業資金
 の運用について農林漁業金融公庫よりの契約条項変更
 に伴い新たに債務負担行為による損失補償を行なおう
 とするものであり補正総額三百九十九万二千円となりその財
 源といたしまして県支出金百八十万二千円及び一般財源を
 もろ充当しようとするものであります。以上議案につきま
 してはきわめて簡単に申し上げましたが各議案につきま
 しては上程の都度関係課長より詳細に説明申し上げます
 ので慎重御審議の上御賛同にまゐりますようお願いする次
 第であります。

議長（田中祿郎君）

以上で市長の説明と終わりました。

日程第一（議案第一号と上程いたします。）

（書記朗読）

議案第一号 簡易水道事業の実施についで

衛生施設課長（吉田耕一君）

議案第一号の簡易水道事業の実施についで御説明申し上げたいと存じます。

本議案につきましてはかねてから富崎地域を中心とした地域からの水道事業の要請にこたえまして今回この七つの関係の地域を区域いたしますところの簡易水道事業を四十二年度から実施したい。このように考えて提案した次第でございます。なお本事業実施におきますところの認可設計に伴います添付書類といたしまして実施いたします市の議会の議決を証するものを添付するというようなことになっておりますのでここに今回提案した次第でございます。

この事業の概況につきまして申し上げます。

一応私どもはこれを実施いたしました。関係におきまして種々検討を加えたわけでございしますが、名称を館山市の名部簡易水道というふうな名称で進めていきたいというふうに考えるわけでございまして、実施年度につきましては四十二年三年というふうな年度で実施完了したい。なお給水区域につきましては議案にもございしますが、富崎の布良、相浜を中心といたしまして、大石、大神宮、中里、竜岡、神余という区域として考えておるわけでございします。給水人口でございしますが、簡易水道の最高給水人口でございします。五千人を二応おさえて計画を進めておるわけでございします。なお給水量策につきましては、水源を調査したわけでございします。市の水源調査等に基きますものを基礎として一応計画を進める。神余の巴川上流の神余の支流とせき止めまして、そこを水源にしたい。このように考えるわけでございします。

この水量を最高五千人に對しまして有効水量十万吨と目途として現在考へております。なおその積算でござりますが簡易水道の厚生省の基準で参りますと一人当りの一日の給水量百五十リットルを基準としておるわけでござります。しかしながら私もいろいろ今後之の需要その他を含めまして一人の給水量を二百リットルといふ積算の基礎を持てます。一日の給水量を二トンと給水するといふふうな計画で現在おるわけでござります。

概算の工事費でござります。いろいろ関係コンサルタントあるいはその他の技術者あるいは県の調査指導も依頼いたしまして大体の工事費一億五千万程度でござる。たゞつというふうな目算を指示を受けましたのでござる。一億五千万というものを基準として今回簡易水道の実施をいたしました。このように考へるわけでござります。その他なお神戸地域の開発計画等も種々あるわけでござります。て現在の段階の簡易水道の範囲としても最高であるし開発され

ろであらうというふうな推定等もあるわけでございますが、そうした面等におきまして、いろいろ県の水道計画というものが、等を十分加味いたすとともに、県の意見も参酌いたしまして、とりあえず要望にこたえ得るよう、に逐次今後の計画推進をなしていきたい。このように考へて、今回簡易水道事業の実施につきましても、決議をいたしたく存じます。方々の御審議をお願いしたいと考へておる次第でございます。以上でございます。

議長(田中祿郎君)

説明を終わりました。御質疑願ひます。

一。番(辻田実君)

二三質問申し上げたいと思います。

に、いま説明の中でも、給水人口五千人というのが、簡易水道の限度だ。従つて、これよりぎりぎり、ぱいのものとした、という説明があった。五千人の人口でよろしいわけでございますか。その点をお伺いしたい。

その五千人の人口の把握をどのような形で取っておるかという点についで御質問したいわけでございます。といいますのは西岬方面におきまうところの簡易水道事業の中で給水人口の取り方によつて例えは夏季になりすぎると非常に通常より膨入して避暑客の水の面について困つてゐる面もあるやに聞いております。従つて神戸、富崎、この方面によつて例えは漁業の関係、船舶の関係さらに避暑客さういふものの流動入つてくるとこの人々をこの五千人の中に入れておるかおらないか、この点では手取りお伺いしたい。これをまづ第一点としてお伺いしたい。

第二点といたしまして水源の問題でございますけれども先般協会のときにも質問申し上げましたけれども水源に巴川を利用するわけでございますけれども巴川に伴う農業用水さらに一般民家の飲料水の問題、巴川が十分流れておればその水にそつて井戸の水がよく出てゐる。しかし上にダムを作ることによつて川の水が枯れた。

従つてそれに伴つてくるところの井戸が壊れてしまふとか畑田の水が壊れてしまふ。こつこつ二次的作用というものも起き得るといふことがあり得る。やうするとよくわかりませんが十分調査してあると思ふすが巴川をどうと見た程度で内容はわかりませんがあの川を止めて十カトンの水量を確保するといふことになりまふと夏の水の必要なときに川を干してしまふといふ状態になることが想定される。やうになりますと今いたいろいろの社会問題になつておる公害という形で直接被害でなくて出てくる可能性があるわけでございますがこれら各点につつどの程度調査なされておるかやの点をもと明らかにしていただきたい。

議長(田中祿郎君)

日程第二議案第二号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第二号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算(第五号)

・財政課長（長谷川広治君）

議案第二号の一般会計の第五号の補正予算について御説明
申し上げます。

今回追加をいたします。金額は三百九十万二千円をそれぞれ追加を
いたしまして追加後の金額を八億七千六十六万七千円といたした
いものでござります。歳入歳出の補正の金額は第一表五ページ
でござります。がこの区分によりそれぞれ追加をいたしたいといふ
うに考えております。

細部にわりましたは六ページ七ページの明細書により御説明を
申し上げます。さらに今回地方自治法二百十四条の規定により
まして債務負担行為をいいたすべきものを追加をした
しております。四ページでござります。これも細かくはのちほど御
説明を申し上げます。

・運営書記長（大嶋重義君）

七ページニ款総務費四項の選挙費についで御説明申し上げ
ます。

今回選挙費の中に新しく衆議院議員選挙と最高裁判所の
の裁判官国民審査の費用を百八万二千円お願いしてござい
ます。この内訳でございまして、一節の報酬九万六千円、投票管理
者、開票管理者、投票票の立ち会ひ人のそれぞれ報酬でござい
ます。三節の取手手当てでございまして、投票事務、開票事務、準備
事務の二つに分けてそれぞれ従事者の超過手当てでござい
ます。投票事務の超過手当ては日曜でございまして、一人当り二千四百
三十円で開票百九十八人分を計上して四十四万五千円でござい
ます。開票事務の超過でございまして、一人当り千五百五十円の百五十八
分十六万四千円と準備事務に十萬三千円でございまして、
七節賃金におもなものは臨時用人の賃金と人夫賃金でござい
ます。八節の報償費でございまして、これは投票所、開票所で小使い等の

雑役に対しての謝礼でございまして、一人当り二百円、計二十五人分五千円、それから有線放送のアナウンサー等をPRに願いますので、この謝礼が一万円でございまして、

旅費でございまして、委員の費用弁償に六万一千円、これは委員長会議立ち会い演説会等の視察にいたしましたものが六万一千円、普通旅費三万三千円は事務局の打ち合わせ会議、視察等の旅費でございまして、

市内旅費八万二千円でございまして、入場券、選挙広報の配布を職員に依頼するわけで、これに従事する職員が百八十人、大体一人当り四百円を予定しております。

需用費でございまして、消耗品三十万七千円、おもなものは消耗器材二十九万六千円、これはポスター、掲示場の掲示板、支柱二十五万五千円、燃料費はガソリン代、不炭代等三万九千円でございまして、

食料費の十一万二千円、投票関係者の中食代五万円、開票関係の

食料費三万円、その他委員会のまかない費三万二千円でござります。印刷製本費四万八千円、おもなものは、今回特に衆議院選挙の広報と臨時特集として出したいということ、これが四万円でございます。十三の委託料五万円は、明るく正しい選挙推進協議会というものがござり、選挙の啓発事務といたして、タイアップしてやっております。が、今回の委託内容は、大体二十五日に、自動車のパレード、それから広報車を二台に、使って街頭放送をやるということ、もう一つは投票日の前日に、明るく正しい選挙の、日本都というものを、県下全町村で作って、棄権防止をやることで、これらをおもに推進協議会にやらせてもらうという内容で五万円でございます。

十五節、工事請負費五万三千円、ポスター掲示場の設置を業者がやらせたいということ、計上いたしました。大体以上の内容でござります。が、この百八十万二千円の総経費につきまして、県の委託金をもうまかなうことには、なっております。のぞくよう願っています。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

四款、衛生費（一日の水道施設費）について御説明申し上げます。
先ほど御決議いただきました簡易水道の認可をいただきました。関係の必要なる認可設計書、その他認可に對します、調査の資料というふうなものを専門家に委託して作りたい。このように考へてお願いしようというものでござります。なお、当林初におきまして水源調査計画というふうな面で五十二万計七十九万にござります。が、今回認可設計書等の関係におきまして、不定いたします。二百十万円追加にしまして認可設計を委託して作りたい。このように考へてお願いしようというものでござります。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

四ページ本件は、昨年度に於きまして同様の御決議を願つたわけですが、今回債務負担行為にしましての借り入れ条件の改正と新たに四十一年度分の借り入れ予定額が

決定いたしましたのでそれに対しまして補償の案件として再度
 お願いしたいというわけで提案申し上げたわけでございます。
 ます四十七年度の借入金でござりまするわけでもこの表にござりまする
 通り千八百四十万円が見込まれておるわけでございます。前回
 の決定では四十七年度まででござりました。が今回四十七年度分を新
 たにお願い申し上げたい。それからいま一つは最初申し上げました
 借り入れ条件の一部改正がござりまする。その改正に基づきまして公
 庫から限度額につきましてはの変更方の要請があったわけでございます。
 ますその借り入れに基づきまして限度額欄中の一都につきまして
 変更は借入利率の借り入れ条件と四十七年度の新に借り入れ
 とお願ひしたいというわけでございます。で今回は一部変更にな
 ります。借り入れ条件と四十七年度の新に借り入れされます。
 るものをおえました案件として再度御決議をお願い申し上げ
 たいというわけでございます。変更の点につきましては申し上げたい

と思ひます。が従前によきましては限度額欄に「貸付金の原契約
事に定める元利金の各払い込み期日」この条項が前回では貸付金
の最終償還期限後云々ということ御決定を願ふたわけでご
います。今回ただいま申し上げました通り最終償還期限で
なつて今度は各払い込み期日ごとにとつてに変更されるとう
ことでござります。このような借り入れ条件の変更がござりました
のでその点を加へまして四十一年度の新たな借入金に対しまして
損失補填償の契約を結ばしたいということ御提案申し上げ
たわけでご覧になります。それから四十一年度の千八百四十万の借り
入れ額でござります。これに対して御参考までに若干申し上げ
たいと思ひます。

四十一年度の県営の中央ダム工事は概算工事費にのたしまして
九千二百万円、九千二百万円の事業に対しまして国と県の助成が
御承知の通り七五%あります。あとの二五%がいわゆる受益者

負担というところになるわけでございます。その二五％の受益者負担の八％を限度として公庫から長期起債が受けられるわけでございますが、その額が表にもござります。通り千八百四十万ということに相なるわけでございます。それに対しまして引き続いて関係の市町村の損失補填償の議決を公庫としてはぜひお願いにしたい。また改良庄にいたしまして借り入れの関係がござりますので、関係市町村の御決議をぜひともお願い申し上げたいということ。再度要請が参りますので、その要請に二たえまして、債務負担行事の御決定をお願いして、そうして本工事の内務な運営をはかて参りたいという二とで御提案申し上げたわけでございます。

財政課長（長谷川広治君）

歳入についで御説明申し上げます。

歳出総額三百九十九万二千円ということに相なります。そのうち歳入予

定額といたしました。衆議院議員選挙の關係の費用として県委託金として百八十万二千円を計上いたしました。残りの不足財源を繰越金に求めまして二百十萬円を計上いたしました。歳入歳出差し引き、残金なしといたしました。以上で一般会計補正予算の説明を終わります。

二五番(小沢恵太郎君)

私は選挙費に關連する御質問をしたいと思います。

今度の二十九日に行なわれます衆議院議員の選挙に要する諸経費が計上されておりますが、現在選挙の情勢を見ました時にたいして選挙ムードがわからない現状ではなほどう見受けられます。そこで当局におかれましては明るく正しい選挙の推進に当りましてどんな啓蒙時に棄権防止の啓蒙に於て果体的なことをお考えになつてゐるか御説明願ひたい。

選挙書記長(大嶋重義君)

今回の衆議院の選挙に関連しての啓発の事業計画を御説明申し上げます。これは先ほど説明いたしました推進協議会の委託行事を含めて計画しており、そのようにお聞き取り願いたいと思っております。

一つは年末年始に当りまして特に事前運動等の防止ということで街頭宣伝を行なうのが一つでございます。

それから来る土日特に棄権防止が大きな眼目になっておりますが明るく正しい選挙推進大会を実施いたしましたわけでございます。さらに今後行なうものでございますが、まず一般通行人等を対象として行ないます。自転車のパレードこれは広報車、マイクロバス、乗用車等を使しましてこれに推進員とか選挙の委員が分乗いたしまして全市内を風船を積みこんで巡回しさらに随所で明るく正しい選挙、棄権防止の街頭演説を行なうことが一つでございます。なお啓発用の三角の小旗でございますがこれを五百本

作りまして市内の官公署あるいはバス、タクシー等の自動車にか
けて走りまわつて、それによつてムードの盛り上げをしていただく

それから特にこの選挙にまつての市の広報を臨時特集号を発行し
て棄権防止に努めたいということでもござります。それから広報車
でもござります。これはさしつかえない限り選挙の済むまでフルに活用
して単に表通りでなく、いなかの方まで回わつて一般の選挙民のムード
を高めていきたいということが一つでござります。

それから有線放送、これは六施設でござりますので時に不在者投票
に、それも一般の方が手続き等が複雑でござりますのでよくわからないよう
でも、ござります。で、こうしたことを中心にしてあるのは棄権防止等も強
調して有線放送をお願いしたいということが一つでござります。

それから新聞でもござります。各新聞社にもお願いしてPRに協力
願うということが一つ、それから回覧板を利用したい。

最後に投票日の前日にマイクワバス、広報車を全市内に回わして

最後の啓発の総締めくりをしたい。なお風船等におきましても三千個追加してムードを高めてやりたい。大体こういうものが啓発の内容でござります。

二四番(島野茂樹郎君)

債務負担行為につき御質問申し上げます。どうも理解がいかないで具体的な数字を上げて御説明いただきたいと思うんです。限度額の中で貸付金の原契約書に定める元利金の各払い込み期日払い込み期日というのは元の表ではどうなっておりますかということですが例えば三十五年に借りたものは四年の六月五月まで据え置きになつておりまして四十二年の六月五日になりまして年賦償還という形で返していくのだらうと思ひますが間違つてたり教えていただきたんですがそれを払い込み期日というのかそれとも別に最終の償還期限をさすのかこういう点がありませんか御説明いただきたい。

それから補償の期限等でござりまするが払い込み期日がきた大々月
を経過したのちということですが、さういふようなこと等めからみ合
わせば、よくわかりないうけわけですが、その点も、少し御説明したにき
たい。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

ただ、その御質問でござりまするが、大体御質問の通りでござい
ます。して例え、ば三十五年の二百三十八万を例に申し上げます。
三十五年度におきまして二百八十万借り入れとなっておりますわけ
で、ござりまするて据え置き期間後の四十二年の六月以降は元金
を合算するに、元利金の償還が開始するわけでございます。
この場合に従前でもござりまする、と最終償還期限後云々という
ことで条件があらにわけでござりまする。つまり五十九年の六月一日
以後六ヶ月経過におき、弁済がなされたときに補償する、という
条件があらにわけでござりまする。が、今回は御質問の通り各一年の

六月一日を飛払い込み期日としておさえるというところでかあるわけ
でございまして払い込み期日云々という文字は一番左の欄にこ
ごいます六月一日をすすというところでございます。

二四番(島野茂樹郎君)

そうしますとその年々に返すべき金が集まりないうで返せないという
ことになる年々その分は市で返していく。損失を補償していく。
こういうことになるわけですか。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)

一応理論的にはそういうことでございます。しかし現実の問題
としてはおそらくそういうのに最悪の場合には起り得ないの
ではないかということで私ども信じております。理論的にはい
ろいろお話し通り年々の払い込み期日後六ヶ月の間に一応払い
込みがなかった場合に市がその分についで補償するということ
になりそうです。

三番(君塚喜三君)

契約内容が峻烈に改定を見たわけでもなく、それがそこで私疑義を持たれて、それが農林漁業金融公庫というものは政府機関ではなければ、その資本金は政府の出資金によるものである。

従つて地財法の第二條の第二項に「国は地方財政の自主的なかつ健全な運営を助長することに努め、地方公営団体に負担を転嫁するものな、施策を行なうはならない」といふこと、条文があるわけです。この面から考へても、またこの事業は県営である。

県営であり、土地改良区との間に契約を見ておけるものである。従つて、ついたものが県の責任によつて当然な責任をすべきではないか、それを市町村に付してかような負担がかかるような責任を持たせるといふことは負担を転嫁するものである。

これまた地財法の二十六條の二項に「地方公営団体相互の間における経費の負担を公平に分担するもの」としてはなら

ない」という条文があるのですが、こうしたもので等に抵触するのではなか、その趣旨まことに結構なものでありけれども結果的に見ればいいことなんでしょうけれども条文的に見てそういう点にひかえるのではないという気がする。この点について所管課長の見解を伺いたい。私も即席勉強であるがよろしいとお
りませんのでこの点よく教えていただきたい。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）

お答え申し上げます。今御質問の点でございますが、
がお考えのいたしたいと思っておりますことは、先ほど申し上げ
上げました。が四十一年度の事業費は九千二百萬の事業費
これはあくまでも県営事業でございます。しかしながらその事
業の二五％がいわゆる受益者の負担である。七五％は県国
費と県費でございます。そのうち九千二百萬の総事業費
に對しまして二五％は受益者負担いわゆる改良庄の負担

その二五%の負担金と出しますに際しまして八十%と長期起債
であつて、公庫から改良圧が借りるわけでもござります。つまり九千
二百万円を受益者が直接手元から出しますんで二五%の八%
に当ります千八百四十万を公庫から改良圧が借金したしまし
て、そして二五%の負担を県に出すわけでもござります。

しかし改良圧のいろんな実情からいまして、公庫側はこゝま
までは了解ない。あくまでも関係市町村の損失補償をせひやう
もらいたいというところで、こゝのような案件が出てゐるわけですね。

でありますので、今お話しした地財法云々私もよく存じます。けれども
もあくまでも土地改良圧の責任によつて公庫から千八百四十万を借
りるのだ。借りるに際して市町村のいわけの損失補償の裏づ
けをやしてほしいということでもござりますので、その点御了解したに
ございとおもうます。

二三番（君塚幸三君）

前回の御提案の説明の中に法律的には強制執行してでも取る事ができる。しかしそれはやりたくないで最終的にどんな人事業が進んで水がいよいよくるのだという期待があるならばもう少し支払いもよくするのではなか、どこでもそういうこととがやられておるのだということでは、貸付金があつたわけですがあれあれもそれを信じておたが、それをなぜここに来て、各払い込み期日大々同、というふうなまじしいものにかえられたのか、その点しかも取り立ての法律上の権限があるのだということを、前御説明があらう。そういうものがあつたりも現在六五%位しか払い込みがなされておらない。その損失をここで、お、いかなければならぬ。二つなり、まずすると何だか負担を転嫁されておるといふ気持ちにならざるを得ない、この点もう少し御説明したにきにい。

今回の借り入れ条件の改正につきましては、実は私どもの方としても、
てもいろいろ疑問があるわけでございます。つまり公庫の資金を
大きな仕事に對しまして貸し出すわけでございますので、仕事を一日
も早く完成させるための助成的な公庫資金であるべきではないかと
いうことであります。にきびし過ぎるのではないようでございます。貸し出
しをします。公庫の全部の資金に對しての条件が改正されるのだ
という事で聞かれてゐるわけでございます。その意味合ひによさまし
ていろいろお話しに出ました通りのいろいろな疑念もないわけでは
ございませんが、借り入れ条件が公庫としての借り入れ条件でござ
いますので、それに合致せましたところの損失補償を打ち出していか
なければ、今後の土地改良区が借り入れますのに当たります。支障
をきたす。部面もあるわけでございます。若干の疑念を拂つわけ
でございます。けれどもその条件に合致せずして、各市町村とも解
御決議をいたしました。その裏づけとして、借入金の円滑な借り入れを

進めよう参りたい。ひそは事業の一日も早く完成を祈る。おあり
ましてかような意味合いにおきまして御決定をお願い申し上げ
たい。このようないことであります。

・三番(君塚喜三君)

私も即席の勉強でございます。こゝ以上ござりまするので一応了解いた
します。今後勉強していただきます。

・六番(関武夫君)

二問題でございますが市長さんに御答弁いただきたい。

四十年程度までは最終償還期限云々ということでは契約ができてお
つたそれを今回「各社へ込み期日」云々というふうに変更されてみた
わけでございますが市としては非常に不利な条件になったわけであ
るが四十一年度の分を借りる場合の条件としてそういうことを出さ
れてそれではいけません。ないのだというところになりは別ですが従
来そういう点で契約ができておつたものとこの際また四十一年度以後

のものにからんで強い条件を出して来るということとは、ちよつとわれわれとしても合点がいかない。その間、御説明をいただきました。ということとさらに市長として政治的なお水によつて従来は従来、今後は今後というものができないものかどうが、お尋ねいたします。

・市長（本間譲君）

関さん、御意見は私もよくもどと思っております。ええなば、お話しはしないではないか、今すぐ最終のときにおえない場合に、神償をさす、ということであつたわけだ、ゴッソリですね。今後は新しくそれにかかわらず、毎年毎年義務を負わせるようにやってきました。それに対して私はそういうことはできない。市長として議会の力々にそういうことを提案するということも心苦しい。できないということでは、山崎組合長さんに申し上げた。また同時に公庫の方に課長から電話をさせた。全般的にそういうことになつたという、向こうの説明によつて、ゴッソリいたしました。山崎さんの方に断つた。こういうことは市長として議会の

方に提案するといふことは私としては納得かないといふことで断つたけれども結局公庫の方が全般的にやういふことになつたといふこと
 ひき、山崎組合長の方では決つて迷惑をかけないしニサカの方でも
 すべてにやそおれもあるからせひやそくれ、こつたうお話しであつたわけ
 ひき、全く閑えのお話しのように納得がないわけです。

過去の方まで負担せよといふことは、公庫も政府の金ですから政
 府がこつたう仕事を助成してやるべきものとこつたうことをやるとい
 うことは私としては納得がないといふことで断つたわけひき
 こつたうが决つて御迷惑はかけないからせひやそくれとこつたうで
 こつたうの付したが私本意ではこつたうせんけれどもこつたうことではこ
 こつたうから市としては耕地りと一八。%位常山市の耕地でこつた
 うからこつたうとき前から話しがこつたうしました。が水利権を市の方
 かにしてこつたうといふことも前から考へておりまゝ付したが今、県営
 ですがそれはいいといふことではあるわけでこつたうが迷惑かけないとい

いうことでございまして、公庫のいうことは、絶対に無理です。
そんなばかな話しかはなすけれども、やむを得ない。助成するという
意味で提案して御了承いただきたい、というところでござります。

十六番(関武夫君)

實際私自身もそう思うわけですが、市長さんが今までにそう
いった考え方相手に対する交渉とか内容の経過を御過を御
説明いただきまして、それで不満ではありませんが、一応了解したいと
思います。

十七番(黒川佐太郎君)

この事業は当初の計画通り進捗しているかどうか、ということですが、
というところは形勢でもあまりはかばかしく進捗していませんように思う
んですが、長びくほど物価が上昇するのは、その間にも干害が起ころな
いとも限らない。私は一日も早く促進するように督促していただき
たい。ところで当初計画通り進捗しているかどうかをお尋ねいたし

きう。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）

お答へ申し上げます。当初改良区ができまして事業が始まり
 としての計画が昭和四十五年度までということとで計画されてあり
 ますが、またその話しができましたような観点からして一年
 でも早くというのがわれわれの希望でございまして、でありますので
 少くとも池の工事そのものが四十四年度が目標であつたわけでござ
 ります。その後も四十四年度が四十三年に切り上げて完成さ
 せたいということで現在進められております。でありますので大体
 予定通りの進捗を見ておるといふことがいえると思ひます。なほ
 それに伴つて具体的な幹線の埋め込みという問題について
 も一年でも早く皆さんにその姿を見せることが工事にも一番影響が
 あるということとで、そういうことも合せて四十三年度以降進めて参ら
 りたい。以上でござります。

・十七番(黒川佐太郎君)

予定通り完成すると承知していいわけですね。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)

そうですね。

・十七番(嶋田繁君)

さき御説明の中で工費の二五%が受益者負担、それの八%を
借りる。こういうふうなことで、おと二車〇%は受益者から徴
収してあるわけですが、それによつて運営してゐるということに考へら
れる。その徴収の状況はどうぞございますか、市で負担をになう
ということとは各自がそれに熱意をそれほど示さない。何とかそれに
こたへてはならないという気持ちでやっておりますか、それに
徴収如何といふことになると思ひますが、現在の状況は何かでござ
いますか。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)

お答え申し上げます。今お話し通り借入金のはかに手元から直接出していただく受益者負担、これは賦課金として各自から出してもらうわけでございます。

賦課金の中には参考までにお申し上げすると今申しました借り入れしました残りの金と中央土地改良区そのものの運営費であるほかその他の費用全部合算して又当幾らということが毎年まわられるわけでございます。それによつて賦課金が徴収されてくるわけでございまして、その状況が遺憾ながらかんばしくないと、いうことで現在までできております。四十年度が非常に成績がよろうございまして、約六四％弱というふうなものでございしましたけれども、四十一年度の現在までの累計から参りまして、約六六％若干ではございますが、徴収率も上昇してある。将来がよろな徴収率をもとに進んでもらうわけだ、べく期待してございまして、が、よろな状況でございまして、御了承願います。

・二七番(嶋田繁君)

それもむろん結構な方法ですが部落ごとに徴収に骨を折るもり
うというようなことは考へられずせんか。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)

申し著しましたのが今お話しのこととも現在やりやつあるわけでございます
すが部落ごとに税金で申します納税組合あるようなことで税
組合等を逐次作っていく徴収率を高めていきたいという方法
をやりつあるようでございます。やうな方法が二番効果的で
はないかということが考へられまうので順次その方向に進めていく
ということであるようでございます。

・二七番(嶋田繁君)

やうした方法で進めていただきたいと思ひます。

・一八番(西村直次君)

つだけお尋ねしたいと思ひますが、先ほど課長さんの御説明の中

に市に迷惑がかかるようなことはあり得ないという言葉を棄たなければならず、どういふわけでも、どういふ断言ができるかどうか、その理由をお伺いしたい。お話を伺う限り、賦課金の徴収も完全にできていない。つまり、それだけ損失のかかるおそれがあるという事、実は間違いないわけではあります。と同時に先ほど市長さんより話して水利権云々というお話しても、ごまかしたけれども現在の過程において、それも見込みがほとんど薄いわけでもござります。従って裏づけはないわけでもござります。こういう状況下において市に迷惑のかかることはあり得ないという断言が、どういふわけでもできるか、この点、何ぞおきたいと思っております。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）

お答え申し上げます。なるほど徴収率があまりかんばしくない。そのために、こういう問題が起きて、そのわけでもござります。その面から考えますと、今お話しにありましたような疑問も当然起きて

くるわけではございませうが、この工事につきましては御承知のとおり、果
も国も改良区自体もそれだけの責任におよび進んでおります。一
現実の問題として年々償還して参りますものが未納にするとい
う段階は、おとろくないのではないか、その徴収率はある程度低
うございませうけれども、しかし一部を除きましては部落的に申し上
げますと、 100% に近い徴収率を示しております。一部の部落にお
きまして若干このような問題が残されておりますが、その他の部
落につきましては 100% 近い徴収率で皆さん方が一生懸命になさ
れ、納めてこの仕事をやり終えたいという熱意があるわけではございませう。
ごく一部を除きましてそういう意味がかりませう。市に迷滞感を
かけるような事態には役員の責任におよび、もしないつもりであつし
各受益者のごく一部を除いたものの方も当然、このようなお気持ち
でこの問題を考へておるはずではございませう。少くともそういうた
ことはあり得ない、ということでも私ども信じたいと思ひます。

二八番(西村直次君)

要するにこの問題にましまして私どもの心配するのは法律的にどう
こうという問題は別にまゝして結局館山市に迷惑がかかると思
うところとかりいろいろと論議が出てくるわけでございます。

その点ただそのまゝのお話のようにおやりく間違いないというふうな
お答えでございませうのでそれを信用したまゝして了解してすこ
とにまゝですが、そのかわり十分に中央改良区の方にもその日
を市として申し入れて滞納のないように十分督励していただい
たいと思ひます。

議長(田中祿郎君)

議案第二号は討論者省原案通り可決することに御異議
ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)

異議なしと認めます。よう議案第二号は原案通り決定いたしました。

以上により本臨時会に付議されました議案全部を議了いたしました。よう臨時会を閉会いたします。

午前十時五十八分 閉会

本日の会議に付した事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 禄郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西益男

辻田実

石井正

菊井敏博

志村信作

小沢惠太郎

関武夫

黒川佐太郎

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

島野茂樹郎

嶋田繁

山田教宇

鈴木市蔵

安藤亀吉

安次徳順

三沢節

高橋文治

山本昇

板本藤太郎

山口康

欠席議員

中村省吾

藤田七郎

昭和四十二年一月十七日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

田中 禄郎

同 署名議員

島野 茂樹郎

同

島野 茂樹郎

